

信毎俳壇

今井 聖選

- 九人が吸ひし乳首や柿の花 (長野市) せきたつお
更衣妻の手際の懐しき (長野市) 竹前 正人
親燕わが独り言きいてをり (伊那市) 中村 初治
それぞれの菩薩の顔や滝しづき (安曇野市) 丸山 進也
春惜む心年々強くなり (飯綱町) 坂井 寿男
白南風や深呼吸する大樺 (箕輪町) 向山 政俊
開山祭ホルンの重き音響く (安曇野市) 小坂るり子
友近けり摘草の籠置きしまま (長野市) 橋沢 ナナ
はや灯す裸電球梅雨の土間 (長野市) 荻原 宏祐
長生きの話膨らむ夏料理 (長野市) 富沢 信博
佳作
熟す暇なくて米寿や竹の花 (佐久市) 西田 和彦
新幹線アカシヤの花揺らし過ぐ (飯山市) 小野沢竹次

選評

一句目、産めよ増やせよの時代があつて、その時はこういう「母」は称賛された。柿の花も庶民性の花。二句目、妻の若き日の姿を「更衣」という季語の中に見いだしている。姿も手際も美しかった

妻である。三句目、燕も自分も「親」同士。親としての愚痴を燕も理解しているようだ。四句目、山中、滝の周辺に古刹などあるのかもしれない。さまざまな菩薩の表情が見えてくる。

神野 紗希選

- 郭公や化石のくちら眠る丘 (長野市) 荻原 宏祐
田も畑も雨の安曇野燕飛ぶ (辰野町) 粟津原吉弘
松の芯こそりて風に触れ合はず (長野市) 坂口 智弘
体重計ひやり世界難民の日 (松本市) 久我 綺乃
大姥山や熊鈴かすむ蟬時雨 (大町市) 清水 敏博
推しの子全巻やませのコインランドリー (小諸市) 加藤 陽介
打ち明けて楽になりたしソーダ水 (立科町) 村田 実
古本は火薬の匂い夏の果 (愛知県犬山市) 紅紫あやめ
衣替音響上げてミセス聞く (松川村) 岡 豊村
授乳するママの寝息や夏の午後 (佐久市) 木内利一郎
佳作
ザビエルやサンチャゴ皆眠る影 (塩尻市) 伊東 聖人
迫りくる新緑息吹光城山 (松本市) 原 佳代

選評

一句目、かつての海底が隆起した丘には、鯨の化石が眠る。山の郭公と海の鯨が時空を超えて巡り合えば、涼やかに夏の風が吹く。二句目、田畑に降るのは恵みの雨。ゆたかな安曇野を、燕も伸び

やかに謳歌する。三句目、松の芯のたくましさを、ひと息に詠みくだした。四句目、6月20日は世界難民の日。足裏に触れた体重計の冷たさに、衣食住もままならない人々の困難をふと思う。

坊城 俊樹選

- 薄曇光友絶筆の仏画展 (大桑村) 木戸口信幸
太宰忌や訪ねてみたしパー「ルパン」 (須坂市) 東島賀代子
来し方を確と遺すや蝸牛 (佐久市) 木内利一郎
開拓碑刻む歳月麦の秋 (辰野町) 粟津原吉弘
牡丹咲くレアフのとき恋に恋 (伊那市) 鈴木 秀雄
ふるさとに暮も残らず雲の峰 (長野市) 福沢 ナナ
もう父母は居ぬ爪を切る薄曇の夜 (松本市) 竹内 千波
晩年へすすらの鈴鳴らしけり (長野市) 北沢 亨子
青柿の落つる音聞く夜のしじま (佐久市) 栗林 貞夫
バスのベル背伸びして押す夏帽子 (須坂市) 富田 孝弘
佳作
早苗田や全校生徒整列す (佐久市) 大井 基弘
遠雷や不意に落ちたるブレーカー (長野市) 白鳥 寛山

選評

一句目、友人の絶筆となった仏画展へ行った。そこは薄曇の太陽光が射す会場。あたかも仏様の慈愛に満ちた光に包まれていた。二句目、銀座のパー「ルパン」は太宰治のお気に入りの場所。彼の忌日

には其処へ行ってみたいものである。三句目、蝸牛が動いた跡には筋が残るらしい。それはまるで蝸牛の生きてきた来し方の証のようでもある。もう死んでしまった蝸牛の遺言のように。